

努力賞
(子どもの部)

はっぱが鳥に

第三日暮里小学校 二年

小濱 亜衣奈

やなぎ田先生、こんにちは。

わたしは、いまにしすけゆきさんが書いた「とりになったはっぱのはなし」をよみました。

この本のだいたいの名を見たときに「はっぱがどうやって鳥になるのか」ととても気になり、わくわくしながらページをめくりました。

一ばんおもしろかったところは、はっぱの色によっていろいろな色の鳥になるところです。はっぱの色と同じ色の鳥になるところがちよっとびっくりました。それぞれがちがう色なので、色のちがう鳥たちのこうどうもそれぞれちがうのかなと

思いながら読みました。

もしわたしがかみさまだったら、はっぱを鳥にするのではなく、おちたはっぱをあつめて、あたらしい大きな木にしてあげたいです。そのりゆうは、いろいろな色のはっぱがある大きな木がつくりたいからです。はっぱも、木にもどれてうれしいかなと思いました。

わたしはかみさまに「はっぱがおちないように、ちゃんとおさえたほうがいいですよ」と、教えてあげたいです。はっぱがおちずにいられれば、かなしく思うこともないからです。

この本を読んで、かみさまは木のはっぱ一まいでも大切に思い、見まもっているんだなと思いました。雨でおちたはっぱや、かれはになっておちたはっぱを見るたびに、かみさまのことを思い出せ

そうです。これから、かみさまがかなしくならな
いように、はっぱのような小さなしぜんもあた
らしいのちに生まれかわるものとして、たいせつ
にしたいと思いました。